



VOL 23

2009年5月号

発行2009年4月29日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

大山で御料局の標石を見つける

大西 攻

以前の私は、登山道で出会う標石には無関心で見過ごしていたが、AGC クラブに席を置くようになり標石に興味を少しは示すようになった。国内には、三角点・水準点・図根など、いろいろと変わった標石があり興味深く思う。今回は、麗山会(JAC 同行会)畑島氏の案内で丹沢の大山に北尾根から登った。

一般的なハイキングの山で有名な大山でも北尾根は、以前に下山道を間違えて遭難したニュースもあり、静かで味わい深いコースである。今回の御料局境界点標石のある場所まで、少しガイド的に書いてみる。

ヤビツ峠でバスを降りて車のパーキング場の脇を、直に藤熊川支流の沢に向かって降って行く。富士見山荘方向に向かう自動車道が通じているためか最近、あまり踏まれている道ではない。所々に小さな崩壊があり、傘をさしながら小雨の中を滑らないように注意して歩く。

青山荘で先ほどの自動車道に合流して舗装道を歩くようになり、しばらくして雨足が激しくなる。今日は山歩きをするような天気ではないと、思いながらも午後には雨が上がりと言う天気予報を信じて歩く。諸戸山林事務所を過ぎたあたりから、山の斜面に薄黄色のミツマタの花が盛りできれいである。特に車道が、大きくU字にカーブしているあたりは、上部の林斜面に奥の方まで見事に咲いている。カメラマニアが写真を撮りに来ている。

地獄沢橋を渡る手前の右に林道があるが、入口ゲートの扉が閉まっている。橋を渡りカーブミラーが見えてすぐの右手に大山登山入口の小さな標識が立っている。小道であるが踏み跡が、はっきりついているのでわかる。しばらく右下に見える地獄沢に沿った道を歩くが、まだ3月と云うのに蛭が出てきた。仲間の一人が手の甲に吸いつかれて血を流している。667mピークを巻いた鞍部に出たところには雨も上がり、あとは尾根の上に沿った道を登り詰めて913mピークに出る。目の前の近いところに送電線の鉄塔が立っている。

このピーク上の手前端に標石が立っているので調べると御料局境界点と刻んである。御料局の標石は数が少ないと思ったので帰宅した後ほど、遠山氏に報告したところ御料局境界点の標石は、ご本人自身見たことがないということである。同行のメンバーは、無関心に休んでいたが標石を写真に撮った。(下記写真)(昨年11月末に岩手山麓、鞍掛山の山頂で御料局三角点を見つけたので、これで御料局の標石を二種類、見つけたことになる)

この先は、大山の山頂も時々望める尾根道であり、途中に出てくる痩せ尾根で足元を注意するぐらいで迷う

ことなく山頂に出た。山頂の手前は鹿の侵入を防ぐ柵があるため、置いてある脚立を登って越える。山頂からはケーブルカー駅に出て、打ち上げの時間を稼ぐためケーブルカーで降りた。最後に美味しい湯豆腐を食べながらの打ち上げ会では、更に盛り上がり楽しい満足した山行となる。(大西 攻)



地獄沢橋から御料局境界点までのGPS軌跡



御料局境界点の標石



(おことわり)「ゆにーく 標識&標石」は休載します

救急法の講習雑感

今井 秀正

山を楽しむ私たちは、いつも怪我をする危険があることをそれなりに覚悟しています。同行する仲間や自分が怪我や身体の異常が発生したときには、何らかの手当をしなくてはなりません。ところがよく考えてみると本当に正しく対応する知識があるわけではなく、自己流か、聞きかじりで対処していることがわかります。

そのような理由で3年前に日本赤十字社の救急法救急員の講習を受けようと思い立ち、2日半の日赤東京都支部の講義と実習の後、3年間有効の「日赤救急法救急員」の認定を得ました。救急法に類する講習会はそれ以外に東京都では東京消防庁で実施している応急手当講習会というものがあります。こちらは講義と実習が1日(8時間)ですが、「上級救命技能認定」が得られます。日赤と消防の講習は目的は同じですが、どのような違いがあるのかを知りたいということも含めて、次の3年間のために上級救命講習を受けることにし、3月末に受講してみました。

何れも家庭や市中での傷害や急病人に対して救急車が到着するまでの応急手当ですが、両者の違いは講義と実習の加減が違いため受講時間に差があるということです。どちらでも救急法の実技が身に付くことは変わりません。じっくり勉強する時間が許されるならば日赤、手早く身につけたい方は消防ということのように思います。何れの場合もAED(自動体外式除細動器)とCPR(心肺蘇生)に重きを置いています。講習を受けると、この二つが救命に対して如何に重要なことかということが十分理解できます。

私たちにとって山中での傷害や発病に対しては当然救急環境が異なりますが、身につけておくことによって、家庭内の傷病や交通事故などに遭遇したとき、まさに命を救う手伝いが出来ることとなります。その他止血法や骨折などの対処、捻挫の時の足首固定の実習等もあります。またスポーツ傷害を対象にしたテーピングとして、山行などスポーツ全般の手当てや予防に役立つスポーツテーピング講習がテープメーカーであるニチバンによって年に数回、基本コース、応用コースとして行われています。これは自らにとって大変役に立った経験があります。

それぞれの費用は軒ととも日赤では3,000円、消防庁は2,600円、またテーピングは今年度から少々値上がりですが基本、応用とも10,000円前後です。家族のため、仲間のため、時には自分のために時間をつくり、講習を受けられては如何でしょうか。それぞれインターネットのホームページから申し込むことができます。

行ってきました

高水三山・谷久保沢

北野 忠彦

青梅線軍畑駅に下りた登山者は、9:12、9:48の2本の電車合計で50人をはるかに越えていたと思われます。その集団が東、高水三山に向かったのと逆に、われわれ10人は西に谷久保沢に向かって、10:00出発。沢の名は、山と高原地図ではヤナクボ沢となっていますが、現地の治水工事の看板には谷久保沢(やくぼさわ)となっており、これを尊重しました。地形図からは、沢の左岸には6本程度、右岸には13本程度の枝沢が予想されましたが、現地を確認できたのは左岸6本、右岸11本で杉林の中の小さな枝沢の確認の難しさを感じた次第です。

道の状況は地形図とまったく異なり、280mあたりから左岸に移っている道のほかに330mくらいまでは右岸通しの、これまかなり年月を経ている道があり、われわれはこの道を歩きました。その先480mくらいまで舗装された林道である点も地形図と異なっていた点です。ここから本来の登山道になったと思いきや、すぐに道が、踏み跡さえなくなり、沢に積みあがった苔にぎっしり覆われた杉の倒木を乗り越え乗り越え、11:55尾根の上の610m地点に到着。昼食後、惣岳山往復は割愛して谷久保沢と平溝川に挟まれた尾根を下りました。はじめはかなりしっかりしていた道が次第にぼやけ、踏み跡程度となり、556mピークの先の下りは主脈よりも枝尾根のほうがはっきりして枝側に引っ張られそうな地形でした。さらにその先小ピークを二つ越えた463m向かう下りも同様な地形で、小さな山なのに読図山行としてはかなり手ごわいという印象でした。後は高圧鉄塔への巡視路(これもかなり壊れた道)を経て、14:10に集落にでて軍畑駅に戻り、青梅駅前の蕎麦屋で打ち上げました。今回の計画は、「山と渓谷」2008年9月号を参考に考えたものですが、地形図にある道が完全に廃道になっていることは思いもよらないことでした。しかも廃道になってからかなりの年月が経っていることとされました(北野記)

山行日: 2009年4月19日

参加者: 10名(今井、大西、片野、加藤、川口、近藤、鶴田(泰)、羽鳥、平野、北野)

例会の議事録

4月定例会記録

2009年4月1日(水) 18:55~19:55 於JAC201号室
出席者15名(北野、平野、近藤、半田(明)、半田(由)、遠山、寺田(正)、寺田(美)、羽鳥、大西、井上(希)、井上(千)、川口、長谷川、今井(順不同))

内容: 3月8日に行われた会山行(高尾山、城山)の報告。(今井) 3月19日にGPSによる調査について国土地理院と打ち合わせが行われた。地理院のプロジェクトは10月頃発足の模様だが、JACでは今のところ科学委員会で担当することはあり得るというレベルである。(北野) 4月19日(日)の会山行について地図配布と説明。高水三山の惣岳山に西方の雷電山を加える。軍畑駅9時30分集合。(北野) 5月の会山行について北高尾山稜線走案が出された。一同賛成。堂所山から北高尾山稜の多くのピークを確認しながら八王子城跡まで縦走する事に決定。日程は5月24日(日)とし、高尾駅北口バス乗り場1番集合。8時50分発のバスを利用する。次会のAGC例7日(木)に変更しているので注意願いたい。

終了後は懇親会(13名)。

以上

(記録:今井)

終了後は「鮎の家」にて懇親会(名)以上 (記録:今井)

お知らせ

次回の例会

日時 2009年5月7日(木) 18:30から
於: 山岳会 ルーム
テーマ: 地形図調査、山行報告ほか

AGC レポート vol-23 2009年4月29日発行
発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com